

令和 3 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立長吉幼稚園

令和 4 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ４・５歳児、各１クラスで、園児数が少ない小規模園であることから、生活や遊びの中で、自分の思いを相手に分かるように伝えたり、自分の思いが相手と違うことに気付いたり、相手の思いを受け止めたりするような経験が必要である。そのために、コロナ禍においても、感染予防に努めながら４・５歳児の異年齢の合同保育や、未就園児や近隣諸学校、地域との交流を工夫して行うことで、身近な人と関わる楽しさを感じる保育の充実を図る。
- 園児数が少ないため、子どもたちは遊びの中で遊具や用具、遊びの動線が確保しやすい環境である。身の回りの環境に目を向け、危険な遊びや場所に気付き行動する経験が必要である。そのために、安全な生活や社会生活の知識や態度が身に付くように、年間計画を見直し、指導方法を工夫する。また、保育の取り組みを保護者に分かりやすく発信し家庭との連携を図る。
- 基本的な生活習慣の定着には個人差がある。子どもたちに望ましい生活習慣が身に付くように実態を把握し、教材研究と共に指導内容を工夫する。幼稚園と家庭が連携することで、保護者や子ども自身の意識を高め、幼児期に育まれた生活習慣が、健康な心と体づくりの基礎になることを啓発する。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 令和３年度のアンケート調査で、「子どもは、先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを感じていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８５％以上にする。
- ② 令和３年度のアンケート調査で、「幼稚園は、人との関わりを広げ、思いやりの心や優しさを育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８０％以上にする。
- ③ 令和３年度のアンケート調査で、「幼稚園は、安全な生活や社会生活に必要な知識や態度を育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８０％以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 令和３年度のアンケート調査で、「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに好奇心や探求心をもって関わっていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８５％以上にする。
- ② 令和３年度のアンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが運動遊びを楽しむ子どもに育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８５％以上にする。
- ③ 令和３年度のアンケート調査で、「保護者は、幼児期に大切な望ましい生活習慣を考えるようになったと思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を８５％以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

学校園の年度目標

- ① アンケート調査で、「子どもは、先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを感じていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。
- ② アンケート調査で、「幼稚園は、人との関わりを広げ、思いやりの心や優しさを育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を80%以上にする。
- ③ アンケート調査で、「幼稚園は、安全な生活や社会生活に必要な知識や態度を育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ① アンケート調査で、「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに好奇心や探求心をもって関わっていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。
- ② アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが運動遊びを楽しむ子どもに育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。
- ③ アンケート調査で、「保護者は、幼児期に大切な望ましい生活習慣を考えるようになったと思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

○令3年度のアンケート調査で、すべての項目において「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の目標数値を達成できた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 「子どもは、先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを感じていますか」という項目について「そう思う」の回答が100%であった。

子どもたちの園生活の様子や、育ちを発信する方法を、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて工夫した結果と考える。子どもたちが「幼稚園が大好き」と喜んで登園することで、子ども一人一人が大切にされているという実感を、保護者がもてるように発信方法を今後も工夫する。

- ② 「幼稚園は、人との関わりを広げ、思いやりの心や優しさを育てていますか」という項目について「そう思う」83%「どちらかといえばそう思う」17%と肯定的な回答が100%であった。

今年度も異年齢・未就園児・近隣小学校や地域との交流を工夫したが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて継続することが難しかった。様々な人と出会う機会を教師自身が大切にし、子どもが自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いに気付いたりする経験を通して、人とふれあう楽しさを感じられる取組を今後も工夫する。

- ③「幼稚園は、安全な生活や社会生活に必要な知識や態度を育てていると思いますか」という項目について、「そう思う」92%「どちらかといえばそう思う」8%と肯定的な回答が100%であった。

計画的に避難訓練を実施したり地域散歩の機会を利用したりして、防災や交通ルール、公共マナーについて指導した。また実態に応じて、学期毎に教材を作成して安全指導を計画的に実施した。今後も取り組みを、保護者に分かりやすく発信する工夫をする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ①「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに好奇心や探求心をもって関わっていると思いますか」という項目について「そう思う」の回答が100%であった。

教師が、子ども一人一人の興味や関心に応じた環境を整え、遊びの中での育ちや、就学前教育の大切さについて、機会をとらえて保護者に発信した結果と考える。今後も、保育の充実につながるように、家庭と連携して一人一人の幼児理解と教師の指導力の向上に努める。

- ②「幼稚園は、子どもたちが運動遊びを楽しむ子どもに育てていると思いますか」という項目について、「そう思う」92%「どちらかといえばそう思う」8%で、肯定的な回答が100%であった。

異年齢の関わりの深まりが、様々な運動遊びを楽しみながら、友達と励まし合い根気強く取り組む姿につながった。今後も、子どもたちの体の動かし方の実態を把握して環境を整えたり、意欲的に活動できるように働きかけたりして、進んで体を動かすことを楽しむ環境づくりを工夫する。

- ③「保護者は、幼児期に大切な望ましい生活習慣を考えるようになったと思いますか」という項目について、「そう思う」75%「どちらかといえばそう思う」21%と肯定的な回答が96%。「あまり思わない」4%であった。

保護者アンケートの記述から、保護者は幼稚園の保健指導への関心があることがわかった。しかし、保健指導を生活に取り入れるという保護者の意識は家庭によって差があった。今後も、望ましい生活習慣に対する意識が高まるように、小規模園のよさを生かし、各家庭に応じた啓発の工夫を行う。

大阪市立長吉幼稚園 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① アンケート調査で、「子どもは、先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを感じていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。</p> <p>② アンケート調査で、「幼稚園は、人との関わりを広げ、思いやりの心や優しさを育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を80%以上にする。</p> <p>③ アンケート調査で、「幼稚園は、安全な生活や社会生活に必要な知識や態度を育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>子どもの育ちを保護者と共有し、子ども一人一人が安心して過ごせるようにする。</p> <hr/> <p>指標 ・園での活動や子どもの育ちを月1回以上、園だより・掲示・保育室降園などの機会を通して保護者に分かりやすく伝える。</p>	A
<p>取組内容②</p> <p>【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>園内での異年齢の関わりや地域活動等、様々な交流活動を通して、コミュニケーション力の基礎を育む。</p> <hr/> <p>指標 ・学期に一回、挨拶週間を実施する。 ・異年齢交流の集会を、月1回以上行う。 ・未就園児や地域交流を、年8回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③</p> <p>【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>子ども一人一人の力が十分に発揮できるようにする。 家庭や関係諸機関と連携し、保護者サポートや援助の在り方を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・園内委員会を学期に1回以上行い、教職員間の共通理解を図る。</p>	B
<p>取組内容④</p> <p>【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全マニュアルを作成し、共通理解する。 安全指導や様々な事態を想定した避難訓練を行う。</p> <hr/> <p>指標 ・安全指導を年5回以上、避難訓練（不審者対応避難訓練含む）を年6回以上実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、様々な行事の変更があったが、その都度子どもたちの育ちを保護者に分かりやすく伝え、幼稚園と共有できる工夫を行った。</p>

(1 学期)

- ・家庭訪問に代わる個人懇談を5月に行い、新しい環境で子どもも保護者も安心して過ごせるように配慮をした。
- ・保育参観の代わりに、子どもの園生活の写真を5月と7月の個人懇談時に、保育室前に掲示し保育の様子や育ちを可視化できるように工夫した。
- ・保育の様子を動画撮影し、1学期終業式に保育内容を保護者により分かりやすく発信する際に活用した。

(2 学期)

- ・2学期は、緊急事態宣言の解除に伴い、作品展前に保育参観を行ったことで、作品展までの保育の過程を通して、子どもの育ちを保護者に理解してもらう機会になった。
- ・園庭開放を分散して再開したことで、保護者と子どもの姿を通して、育ちや課題を共通理解する機会をもつことができ、幼児理解や家庭との連携につながった。
- ・参観方法の工夫として、12月中旬に希望者を募り、保護者の保育参加を行った。保育内容を教師と打ち合わせをしたことで、遊びを通した学びや、保育の取組、教師の思いを発信する機会になった。

(3 学期)

- ・生活発表会は劇遊びや歌・合奏の取組や、遊びの過程、当日の子どもの姿を担当からメッセージカードにし個別に配付し、保護者と子どもの育ちを共有し合った。

(年間)

- ・毎月配布したり、HPに掲載したりしている「子どもの姿」は2学期からは、育ちつつある姿のキーワードを入れ、教育内容の発信の工夫をした。
- ・学期毎の終業式に、パワーポイントを活用して保護者に保育内容を発信した。

- ② ・朝のあいさつ当番活動『あいさつだいさくせん』は、1学期は年長児のみで月1回実施した。2学期以降は、年中児も加わり、年長児が積極的に挨拶をすることで、年少児も挨拶当番を楽しみに安心して活動に参加することができた。継続して行うことで、地域の方も挨拶や会釈を返してくださり、挨拶を交わす気持ちよさや嬉しさを感じることができ、地域の方への親しみの気持ちをもつ姿につながった。
- ・『異年齢交流』として1学期は集会や、みんなの部屋（空き教室）やリズム室を活用し、巧技台や大型積み木などを利用し、異年齢保育を行った。2学期は運動会に向けての活動や園外散歩を通して関わりを深めた。3学期は園庭でマラソンやサッカー、生活発表会の合奏や劇遊びを見合うことで、良い刺激となり、活動への意欲が高まった。継続して遊びの場を共有できるように環境を工夫したことで、年長児としての自覚や優しさ、年中児は年長児への憧れや進級への期待を高めた。
 - ・『地域交流』では、直接ふれあうことは難しかったが、子どもたちの栽培した夏野菜や笹飾りを地域の方に届けたり、地域の方にいただいた木材を保育に活用したりしたことで親しみをもつ機会を大切にした。2学期は、緊急事態宣言の解除に伴い園外散歩で地域の畑や近隣小学校での保育活動を行った。また、平野コミュニティセンターを見学したことで、幼稚園の創立70周年記念事業と共に地域の歴史を知るよい機会となった。また、12月には週1回「みんなおいでー」を実施し、地域の未就園児とふれあい親しみをもったり、優しくかかわる姿がみられた。
- ③ ・園内委員会以外でも、保育後に子どもの様子を話し合い、実態把握に努めた。また、9月と12月には、巡回指導で専門的な視点からアドバイスを受け、多面的な幼児理解により子どもの困り感や課題が明確になり適切な援助につながった。子どもの実態に合わせて、共通した援助が行えるように、介助サポーターとの連携を心がけて保育を行うことができた。

<p>④ ・避難訓練や安全指導を計画的に実施した。</p> <p>(1 学期)</p> <p>(4 月) 遊具の使い方、平野警察による防犯指導 (5 月) 避難訓練(火災)</p> <p>(6 月) 避難訓練(地震)、傘の使い方 (7 月)避難訓練(火災)</p> <p>・非常ベルの音や身を守る方法について、ていねいに知らせたことで安心して参加できた。安全指導は、子どもたちの実態から手作り教材を作成して指導した。</p> <p>(2 学期)</p> <p>(9 月) 避難訓練(地震・津波) (10 月) 避難訓練(火災)</p> <p>(11 月) 避難訓練(火災・引き渡し訓練) (12 月) 不審者対応避難の仕方を知る</p> <p>・引き続き自分の身を守る方法などを指導したことで、子ども達は必要感をもち避難訓練に参加した。園内の高所避難や二次避難場所への避難など様々な想定で実施した。</p> <p>(3 学期)</p> <p>(1 月) 避難訓練(地震・火災)(2 月) 交通安全指導(3 月) 避難訓練(地震・津波)</p> <p>・避難訓練は抜き打ちで行ったが、子どもたちは落ち着いて行動することができた。交通安全指導の内容を保護者にも発信し、登降園時の安全や年長児は就学後の安全への意識の啓発につながった。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>① ・新型コロナウイルス感染症により、様々な保育の計画が変更を余儀なくされたが、その都度、子どもの思いや保護者の思いに寄り添い、子どもの自己肯定感を育むための保育の在り方や、その保育内容を保護者に発信する工夫ができた。日々の、保護者とのコミュニケーションと、保育内容の発信を今後も工夫したい。次年度は、特に毎月作成している『子どもの姿』の配付時に、担任からより詳しく子どもの育ちを保護者に分かりやすく口頭で発信することに努める。</p> <p>② ・コロナ禍において、様々な人と直接ふれあって交流することが難しい状況にあるが、これまでの交流活動が途切れてしまうことがないよう、活動内容を工夫して継続する。また、感染状況に応じて未就園児活動を取り入れ、いろいろな人と関わりの中で、子どものコミュニケーション力の基礎向上につなげていきたい。</p> <p>③ ・教職員同士が連携し、共通した援助ができるように、保育計画の段階から話し合う機会をもつようにし、子どもが安心して保育に参加できるように努める。</p> <p>・保護者と話す機会をもちにくい、教師が積極的に子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、家庭と連携し、情報共有できるようにする。また、安心して相談できるサポート体制を目指し、関係機関との連携を図る。</p> <p>④ ・避難訓練で子どもたちは自分の身を守る方法が身についた。安全に過ごそうとする意識や態度について、機会を捉えて子どもたちに指導した内容を保護者にも伝えていくことで、保護者の安全への意識を高める工夫をする。</p>

大阪市立長吉幼稚園 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① アンケート調査で、「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに好奇心や探求心をもって関わっていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。</p> <p>② アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが運動遊びを楽しむ子どもに育っていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。</p> <p>③ アンケート調査で、「保護者は、幼児期に大切な望ましい生活習慣を考えるようになったと思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を85%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>【施策4 全ての基礎となる幼児教育の普及と質の向上】</p> <p>【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>自分の思いを十分に出し、したい遊びを見つかったり、目的をもって遊んだりすることを楽しむことができるような環境と教育的意図をもった働きかけを考える。</p> <hr/> <p>指標 ・子どもたちの興味や関心、就学前教育カリキュラムに基づいた園内研修を1人2回ずつ行う。</p> <p>・保育実践の記録検討会を学期に1回行う。</p>	A
<p>取組内容②</p> <p>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>園内外の環境を利用し、進んで体を動かし運動遊びを楽しめるよう、活動内容や環境を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・いろいろな活動の中で、多様な動きを楽しむことができるよう、年間計画を立て保育実践を行う。</p>	A
<p>取組内容③</p> <p>【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>年間保健計画を作成し、子どもの実態に応じた保健指導を計画的に行う。</p> <hr/> <p>指標 ・保健指導を毎月行うとともに、健康や清潔に関する取組みを実施する。</p> <p>・毎月の保健だよりや掲示を工夫し、保護者に啓発する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① ・指導要請やブロック研究の実践事例検討会を通して教師が学び合い、子どもたちの興味関心や実態を捉えて環境を構成したことで、子どもたちが主体的に遊ぶ姿につながった。</p> <p>・担任による、年間2回の園内研修を実施したことで、お互いの保育を見て学び合うことができた。</p> <p>・年少児・年長児合同で、運動会や創立70周年記念行事に取り組んだことで、教師が多面的な幼児理解を学び合うことができた。特に運動会では、全ての教職員が子どもたちの意欲を受け止め、励ましながら関わったことで、子どもたちが主体的に遊ぶ姿が</p>	

増え、その後の意欲的な遊びの姿につながった。

- ②
- ・巧技台や大型積み木などを使って遊ぶ中で、自分の思いを伝え、イメージを共有しながら、遊びに必要なものをつくったり、考えたりしながら体を動かして遊ぶ環境を子どもと共に構成したことで、主体的に運動遊びを楽しむ子どもたちが増えた。
 - ・年長児が運動遊具に根気強く挑戦する姿から、年少児も憧れをもち挑戦する姿になった。運動会の活動は、2学年合同で行ったことで、子どもたち同士の関わり合いが多くみられ多様な動きを楽しむ姿につながった。
 - ・子どもたちは寒さの中でも体を動かす心地よさを感じていた。なわとびや一輪車などの運動遊具を引き続き楽しんでた。また、ボール遊びでルールを自分たちで考えたり、友達を誘ったりしながら遊ぶことを楽しんだ。年長児と年少児が一緒に遊ぶ中で、思いが行き違うこともあったがお互いの思いを仲立ちするなどしていくなかで、子どもたちの関わりも増えた。
- ③
- ・毎月『保健だより』と、保健行事や保健指導の内容を掲載した『すくすくタイム』を発行し、保護者へ保健に関する情報を発信した。『すくすくタイム』を配付したことで、家庭での生活リズムの見直す際の参考になったことが保護者へのアンケート結果から分かった。
 - ・年度当初に作成した年間計画に基づき毎月、保健指導を実施した。
(4月) 保健室の利用の仕方 (5月) 手洗いうがいの仕方 (6月) 熱中症について
(7月) うんちの種類とトイレの使い方 (9月) 早寝早起き朝ごはん、マスクの付け方
(10月) ケガの予防 (11月4歳児) 野菜について (11月5歳児) 3色栄養
(12月) 風邪の予防 (1月) 骨と姿勢について (2月) 爪の清潔について
(3月) 成長について
 - ・指導に使用した教材を保健室前に掲示したことで、掲示物を見ながら子ども同士で話をする姿が見られた。また、保護者アンケート結果から保健指導の内容を家庭で話し、生活に活かすことができた子どもがいることが分かった。
 - ・長期休業期間には、子どもと保護者が一緒に取組む健康カレンダーや歯磨きカレンダーを配布した。食べ物に関する保健指導を行った際は、子どもと保護者で野菜を食べることを意識できるように、野菜カレンダーを配布した。

次年度への改善点

- ①
- ・週1回の保育の打ち合わせを確実に行う。子どもたちの興味や関心に応じた保育につながるように、教師自身が主体的に学び、自分の指導力を向上に努める。
- ②
- ・体を動かす遊びは、心身の育ちにつながることが今年度の子どもたちの姿からよくわかった。子どもの実態を捉えながら子どもたちが多様な動きを遊びの中で経験できるように環境構成をする。
 - ・運動遊具に根気強く取り組む姿から、年長児はお互いに励まし合い、年少児は年長児に憧れの気持ちをもった。子ども同士の遊びをつなぐ教師の働きかけを工夫して、子どもの意欲につなげていく。
- ③
- ・次年度も保健に関する年間計画を作成し計画的に保健指導を実施する。また、子どもの実態やその時の状況に合わせ、年間計画を加筆修正し、保健に関する取り組みを実施していく。
 - ・降園連絡の時間等を利用し、保健指導の教材を保護者に見せながら伝える等、啓発内容や啓発方法を工夫して、子どもと保護者が健康や生活習慣を考えられるようにする。

協議会

1、総括についての評価

- ・本年度の幼稚園の自己評価結果について、保護者アンケート結果が全ての項目において、ほぼ 100% で肯定的な回答が目標を大きく上回っている。よって、年度目標達成に向けた取組の進捗状況および年度目標の達成状況は妥当である。
- ・自園の現状と課題を踏まえ、年間計画に基づいた活動実施と丁寧な指導に取り組んできた結果であるとする。

2、年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ⑤ アンケート調査で、「子どもは、先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを感じていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 85% 以上にする。
- ⑥ アンケート調査で、「幼稚園は、人とかかわりを広げ、思いやりの心や優しさを育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 80% 以上にする。
- ⑦ アンケート調査で、「幼稚園は、安全な生活や社会生活に必要な、知識や態度を育てていますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 80% 以上にする。

[アンケート調査①②③「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の肯定的な回答が 100%]

- ・コロナ禍においても、子ども達が安心・安全に教師や友達と遊べる環境づくりを工夫したことが、保育の充実につながったと考える。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の状況に応じながら、地域との交流に取り組んでほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ④ アンケート調査で、「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに好奇心や探求心をもってかかわっていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 85% 以上にする。
- ⑤ アンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが運動遊びを楽しむ子どもに育てていると思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 85% 以上にする。
- ⑥ アンケート調査で、「保護者は、幼児期に大切な望ましい生活習慣を考えるようになったと思いますか」という項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」との回答を 85% 以上にする。

[アンケート調査①②「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の肯定的な回答が 100%
アンケート調査③は「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の肯定的な回答が 96%]

- ・アンケート結果から、一人一人が園生活において、満足感を得られていることが分かる。一人一人の子どもを大切にしたい小規模園のよさを生かした保育を継続してほしい。
- ・保護者の保健指導内容への関心や理解が高まっていることが分かる。取組の発信と共に、子ども自身が保健指導を家庭でも話したり、進んで実践したりする姿が、保護者の意識の啓発につながったと考える。

3 今後の学校運営についての意見

今後も小規模園のよさをいかし、園児一人一人を大切にしたい保育と保護者サポートに取組み、幼稚園と家庭との連携が、子どもの健やかな成長につながることを期待する。コロナ禍であっても、今年度のように、未就園児や学校、地域との交流を継続し、長吉幼稚園の教育の充実と発信に努めてほしい。

